

令和7年4月10日
(資料提供)

(事務担当) 所属名：農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病害虫防除室 直通：257-7041
--

令和7年度病害虫発生予報第1号について

今後 発生が予想される水稻、麦類、大豆、果樹、野菜の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 4月下旬～5月中旬

2 予報内容

(1)水 稻

イネミズゾウムシの発生は**多**と予想される。箱施薬していないほ場では、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

(2)麦 類

大麦赤かび病の発生は**並**と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の3～5日後とその7～10日後の2回防除を実施する。

(3)大 豆

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

(4)果 樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。胞子飛散は4月中旬からと予想されるため、発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(5)野 菜・花 き

トマトキバガの発生は**多**と予想される。発生を認めたら直ぐに防除を行う。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

コナガの発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。

また、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。